
さめるお湯

関村俊介
ver.2.000

登場人物

アラキ(荒木)	発明家。
コジマ(小島)	アラキの秘書的なことをしている。遠い親戚。
ヒラヤマ(平山)	アラキの手下的なことをしている。
カズエ(かず江)	アラキの妹。
ウスイ(臼井)	アラキの高校の同級生。遠くに住んでる。
ナカモト(中元)	ウスイの妻、高校の同級生。
タヌマ(田沼)	アラキの高校の同級生。近所に住んでる。
ミチコ(道子)	タヌマの妹。カズエとも仲良し。
ヨシノ(吉野)	アラキの高校の同級生。近所に住んでる。金持ち。
キタミ(北見)	アラキのファン。お得意さん。

アラキの家。

テーブルがコタツになってるものがある。そこに椅子3つ。
端のほうに、丸椅子1つ。

外は大雪が降っている。

ウスイ、ナカモト、アラキが座っている。

テーブルの上には、やかんとみかん。

やかんにはなにやら文字が書いてある。

中元　ねえ、これ（やかん）なに書いてあんの？

荒木　あ、これ？聞いちゃう？

中元　や、言いたくないならいいけど。

荒木　言う言う。俺さ、今、発明家やってんの。

中元　発明家。

荒木　うん。でね、これは発明品。字は、メモみたいなもんね。

臼井　やかんにしか見えないけど。

荒木　これは凄いいんだよ。お湯がね、さめないやかんなの。

臼井 やかん型の魔法瓶ってこと？

荒木 違うよ、お湯がさめないやかんだよ。

臼井 つまり魔法瓶ってことだろ？

荒木 違う違う、そうじゃなくて、お湯がさめないやかんなの。

臼井 うんだから、それはつまり、魔法瓶だろ？

荒木 わかんないやつだな、これにさ、水を入れるでしょ。

臼井 うん。

荒木 で、沸かすでしょ。

臼井 うん。

荒木 さめないんだよ。

臼井 だから、それは魔法瓶だろ。

荒木 違うよ。なんで違いがわかんないんだよ。

臼井 わかんねえよ。

荒木 じゃあ、ちよつと待ってて。沸かすから。

やかんを持って、台所へ行く。

中元 迷惑だったかな。

臼井 大丈夫だろ。

中元 だってさ、何年ぶり？アラキに会うの。いきなりさあ。

臼井 大丈夫だよ。

アラキ戻ってくる。

荒木 大丈夫大丈夫全然迷惑じゃないよ。

中元 あ、聞こえてた？

荒木 うん。高校卒業以来だよ、会うの。

中元 やっぱそうだよ。

荒木 どうしたの急にきてさ。

臼井 あ、うん、雪がさ。

荒木 あー、凄いやね今日。

臼井 それで電車止まっちゃって。

荒木 止まってんだ。

臼井 帰れなくなっちゃってさ。

荒木 どこ住んでるの？

中元 わたしの実家。

荒木 へえ。サザエさんみたいな感じだ。

中元 サザエさんっていうよりは、ドラゴンボールみたいな感じね。

荒木 へー。あー。ごめん。全然わかんねえや。

中元 だから、7つ集めるとさ、

臼井 なんか迷宮に入りそうだから、その話やめよう。

中元 あそう。じゃあやめるけど。あ、ねえ、てことはさ、もしかして、これ（テーブル）も発明品？

荒木 そう。これ、いいでしょ？

臼井 ちょっとまだどこらへんがいいかはわかんないや。

荒木 これね。一見テーブルじゃん？

臼井 うん。

荒木 でもね、これテーブルじゃないの。

臼井 いや、テーブルだろ。

荒木 違うの。テタツなの。

臼井 なんだよそれ。

荒木 テタツ。テーブルみたいな、コタツなの。

臼井 へえ。

荒木 これは、自信作なんだよねー。

臼井 座るとあったかい空気が全部出てっちゃうけどね、これ。

中元 こんなこと聞くのもあれだけどさ。

荒木 なになに？テタツについて？値段？

中元 いや。生活できてる？

荒木 どういうこと？

中元 儲かりそうな気配がまるでないからさ。

荒木 儲けるとかじゃないから。

中元 でもさ。

荒木 意外と収入はあるんだよ。特許料とかでさ。

臼井 そうなんだろうな、発明家の世界は知らないけどさ。あっちのでかいのがお前の家だろ？

荒木 そ、ここは作業場でね。

臼井 びっくりしたもん。

荒木 だろ。

中元 年収いくら？

臼井 おまえ、いきなりそういうこと聞くなよ。

荒木 年収は…

臼井 え？答えちゃうの？

荒木 まあまあまあ、普通言わないけどさ、久しぶりに会ったんだから自慢させてよ。

臼井 じゃあ、聞くけどさ。

荒木 年収。100万。すごいでしょ。

臼井 あ、あ、う、うん。

中元 すごいっていうか、うん。バイトしなよ。

荒木 え？

中元 バイトしなよ、そっちのほうが稼げるよ？

荒木 だから、稼ぐとかじゃないんだよ。

中元 いいけどさあ。

荒木 いいんだよ、こんな広い家に住めてるんだから。今日は泊まっていくんだろ？

臼井 いいのか？

荒木 もちろんいいよ。ウスイとナカモトなら、全然いいよ。あ、もうナカモトじゃないか。

中元 まぎらわしいからナカモトでいいよ。

荒木 うん。でもさ、お願いだからセックスだけはしないでね。

臼井 しねえよ。他人の家でするわけねえだろ。

中元 気分次第だけどね。

臼井 しねえから。本当に。

荒木 信じる信じる。あっちの家に行ってすきに使ってくれていいから。

臼井 うん。

荒木 疲れてるんでしょ？

臼井 うん？

荒木 疲れてんだろ？なあ、と思って。

臼井 ああ、まあね。雪も凄かったし。

荒木 いいよ、向こう行って休んで。積もる話は明日でもできるしさ。

臼井 おお。じゃあ、そうさせてもらうわ。

ウスイとナカモトは外に行こうとして。

臼井 お前は？

荒木 あ、俺はもうちょっと作業して寝るからさ。

臼井 そつか悪いな。じゃあ。

荒木 うん。あ、そういえば、今日、なんでこっちのほう来てたの？

臼井 あ、それは…。

荒木 なに？

中元 同窓会。高校の。

荒木 へえ。

台所からピーとかそんなお湯が沸く音が。

荒木 あ、お湯沸いた。

アラキは台所から、さっきのやかんを持ってくる。

荒木 これがさ、さめないんだよ。ここに置いておくからさ。続きは明日。

臼井 あ、うん、じゃあ、お休み。

荒木 お休み。

ウスイとナカモトは部屋へ。

アラキは椅子に座って。

荒木
高校の同窓会か……。あれ？俺、呼ばれてないや。……。ま、いつか。

アラキは作業を再開した。

明かりが暗くなって、そのままアラキは眠るのだった。

翌朝。コジマがやってくる。

テーブルの上のみかんを剥いて、中身は床に捨てる。

みかんの皮から出る汁を自分の目にかけて痛い、

っていう遊びをする。

やがてアラキが起きるが。気付かずにやり続ける。

荒木
おはよう。

小島
ああ。おはよう。またここで寝ちやったの？

荒木
うん。

小島
風邪ひくよ。

荒木 うん。いちおう聞くけど、何してたの？

小島 なにが？

荒木 いやいや、今さ。なんかしてたでしょ。なんかっというか、見てたけど。

小島 はい、朝ご飯。（みかんの中身を渡す）

荒木 これ、地面に落ちてたよね？

小島 果物ってさ、木になって、地面に落ちるものだから。

荒木 皮ついたまま落ちるけどね、普通。

小島 塩でもかける？

荒木 ううん。かけない。ていうか、食べない。

小島 朝食を食べないと、頭が働かないぞ。発明家。

荒木 …洗ってくるわ。

小島 顔を？

荒木 みかんを。

小島 顔も洗いなよ。

アラキは台所のほうへ。

コジマはまたさっきの遊びをする。

アラキ、戻ってくる。

荒木
それ。

小島
なに？

荒木
現行犯つかまえた。今、やってたやつ。なんだよそれは。

小島
あ、これ？修行。

荒木
うん？

小島
ちよつとこっちきて。

アラキはコジマのほうへ。

コジマはアラキの目にみかん汁を発射。

いいリアクションをする。

小島
痛いでしょ？

荒木
痛いよ。なんだよ。

小島
見えて。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

さめるお湯（おためしサンプル）

2012年4月4日 初版発行
2012年4月4日 改訂（ver.2.000）

著 者 関村俊介 © 2012年
発行者 石村寛之
発行所 有限会社レトロインク
〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7
電話 0422-49-2903
